

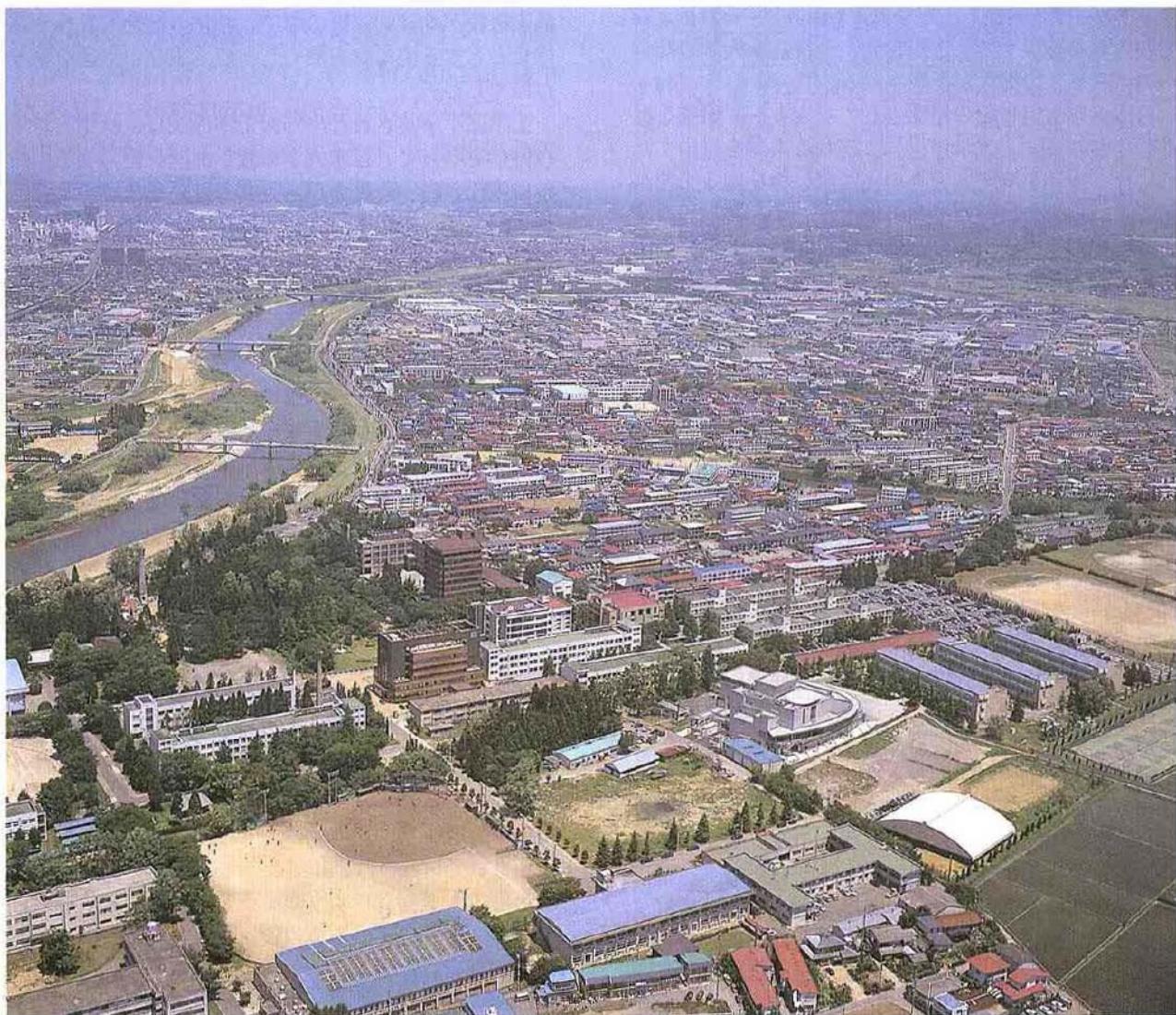
日本大学工学部  
**校友会報**

第 64 号

平成13年 3月 1日

目 次

ごあいさつ	2
平成12年度43回通常総会報告	3
「母校を訪ねる会」第20回目を開催	4
同窓会・クラブ・その他	8
支部活動	12
校友レポート	14
若葉マーク	16
校友短信	17
CAMPUS	18
平成13年度通常総会・第21回母校を訪ねる会	20



日本大学工学部近隣の鳥瞰図



工学部長  
**小野沢 元久**

21世紀という記念すべき年を迎え、校友会の益々の発展を祈念すると共に、平素の温かいご支援に対し、心より感謝いたします。

91年の大学設置基準の改正を契機に、かつての画一化、硬直化した枠組みが崩れ、日本大学は戦後最大規模の変革を迫られるに至りました。

ニューヨーク州立大学のウィリアム・カミングス教授は、「高等教育第三の革命」で、21世紀の大学は「自らの殻をやぶって周囲の社会に溶け込み、そこでネットワークを形成し、ビジネスを創造し、それによって収入減を確保する」と提言し、今後益々大学の社会へのサービスの拡大が予想される。

日本大学も21世紀の事業として日大カード事業を推進しております。本学が世界に誇れる大学を目指すためには、本学を支える人々の間に深い絆を創る必要があるという考えに基づくものであります。学生・教職員及び校友等の横断的な連携とコミュニティーを創出する手段として発行されるのが、日大カードであります。このコミュニティー組織を日大 i クラブと称し、本学のあらゆる機能を会員に還元することを目的にしています。

工学部も「生き残り」と「将来の繁栄」を目指し、一同努力しているところであります。周知のようにグローバルゼーションの波は、科学技術教育とりわけ工学教育の分野で高くなり、国際社会で通用する技術者の養成が求められています。この4月より、社会のニーズを受けてF E 資格の取得を目指した教育プログラム「国際コース」を導入します。正課のカリキュラムとしては、日本で初めての試みであります。更に、工学部では、地方にある大学として、産学連携の新たな拠点作りを目指します。その一環として、「次世代工学技術研究センター」を設置します。この事業計画は、私立大学の先駆的な研究を支援する、国のハイテク・リサーチセンター整備事業に基づくものであります。これが機能すれば、これまででも関係の深い県立医大、会津大、日大医学部はもちろん、地元の医療、バイオ関連企業との連携が強まり、外部資金の導入に拍車がかかり、地域社会への更なる成果が還元できることになります。工学部半世紀にわたる歴史の真価が、今地域社会から問われています。地域に根ざした大学となるためにも、四万人校友の後方支援をお願いいたします。

最後に、校友各位の益々のご発展を祈念し、ご挨拶といたします。

## ごあいさつ



校友会長  
**佐藤 光正**

新しい世界、21世紀が到来しました。校友の皆様には、大いなる希望と満々たる意欲をもって新世紀を迎えたことと存じます。この世紀が母校にもまた皆様にも更なる発展を約束するものでありますようご祈念申しあげます。

昨年12月4日に開催された日本大学全国校友大会では、21世紀日本大学未来戦略推進本部の下に数々の施策を練り上げ英断を持って実践し、世界に誇れる大学を目指すとの決意表明がありました。出席した校友の方々は、母校が地球的視野の中で、教学の社会的責務を遂行せんとする姿に胸を熱くし、能う限りの支援を誓ったのでした。

工学部を卒業された小野沢工学部長は、昨年9月1日付けをもって、日本大学の教学部門を担当する副総長に就任され、今後の日本大学の進路を決定する要として献身的な奉職をなされております。私は先生の叡智と洞察力をもってすれば、必ずやこの重責を全うできるものと堅く信じ、先生のご健勝なることを祈るのみであります。

さて、我が校友会は、日本大学が掲げる母校の変革の理念を学び、その将来像に参加できるよう、会自身も変貌を遂げねばなりません。校友会は、もはや結成当時の任意団体として止まることは許されず、大学存続の有力なパートナーとしての責務が課せられたものと言っても過言ではありません。

北海道支部、関東支部、東海支部、九州支部、四国支部の5支部に加えて、昨年7月北陸支部（新潟県を中心として）が発足し、6支部となりましたが、支部は校友会活動の重要な拠点と位置付け、母校の教学内容の広報、入学志望者の啓蒙、就職戦線への支援、支部地域出身学生ならびにそのご父母の方々との対話と懇親など、新しい分野の活動にも対応しなければなりません。平成13年度の工学部全国父母懇親会開催予定地の中で、工学部が昨年のように校友会支部の支援を希望されているのは、九州と東海の2地区であります。会としても遺漏なきよう対策を密にして対応する所存でありますので、両地域の校友の方々には特段のご配慮をお願い致します。

末尾となりましたが、平成13年度の総会は東京会場で開催致します。議案には、会則の改正など重要な案件が含まれておりますので、各位の忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げ、かつご健勝を念じご挨拶と致します。

# 平成12年度第43回通常総会報告

## 平成12年度第43回通常総会報告

第43回通常総会は、平成12年4月22日(土)午後1時より工学部校内に新装なった50周年記念館において開催された。総会は、佐藤会長の開会の辞に始まり、議長に新井健一郎氏(建11回卒)、議事録署名人に橋本寛氏(建10回卒)および石井和樹氏(土13回卒)、書記に野尻大五郎氏(工化16回卒)および水上崇氏(建22回卒)が選出されて議事に入った。

議事は、村田事業担当から報告第1号・平成11年度会務報告について、伊藤経理担当より承認第1号・平成11年度一般会計収支決算等について報告され、これに対する会計監査報告が鈴木守会計監査(電16回卒)よりあった。続いて議案第1号・平成12年度事業計画並びに第2号、第3号の平成12年度一般会計収支予算および特別会計収支予算が両担当より提案され、いずれも参加者全員の賛同を得て承認された。これにより総会は、手塚副会長の閉会の辞をもって終了した。

総会終了後、恒例の懇親会が校内の情報棟8階・スカイレストランで開催された。懇親会は、小野沢元久日本大学副総長・工学部長をはじめ、校友会本部の渡邊瑞男事務局次長並びに各学部校友会長と、多くのご臨席をいただいた上に、満開の桜の花のもとでお琴のBGMを聞きながらといった、和やかな中にも実りのある盛大なものであった。



平成11年度一般会計収支決算書

平成11年度一般会計収支決算書					
単位:円 △…減					
歳入	種目	予算額	決算額	比較増減	付記
会費	1 終身会費	10,300,000	11,060,000	760,000	
	2 入会金	10,300,000	11,120,000	820,000	
	計	20,600,000	22,180,000	1,580,000	
繰越金	3 前年度繰越金	3,362,695	3,362,695	0	
	計	3,362,695	3,362,695	0	
運用財産より繰入金	4 運用財産より繰入金	1,600,000	1,600,000	0	
繰入金	5 第1回会員登録料	1,473,617	1,473,617	0	
	計	3,073,617	3,073,617	0	
預金利子	6 預金利子	50,000	53,630	3,630	
雑入	7 名簿代金	120,000	216,000	96,000	
	8 雜収入	93,688	340,000	246,312	
	計	263,688	609,630	345,942	
	合計	27,300,000	29,225,942	1,925,942	100.7%

歳出					
単位:円					
款項	種目	予算額	流用増減	予算現額	決算額
事務費	1 賃料手当	4,900,000	0	4,900,000	4,823,710
	2 保険料	380,000	2,015	382,015	382,015
	3 交通費	750,000	27,000	777,000	777,000
	4 旅費	20,000	0	20,000	0
	5 文書費	800,000	0	800,000	550,000
	6 食費	500,000	0	500,000	190,795
	7 器具品費	940,000	0	940,000	655,933
	8 印刷製本費	500,000	0	500,000	168,400
	9 電信通賃費	500,000	23,613	523,613	523,613
	10 修繕維持費	10,000	0	10,000	1,701
	11 光熱水費	30,000	0	30,000	30,000
	12 分担費	500,000	0	500,000	500,000
	13 雜費	100,000	60,800	160,800	160,800
	計	9,730,000	113,028	9,843,028	8,791,028
事業費	14 組織対策費	1,000,000	△ 216,480	783,520	783,520
	15 会報発行費	5,600,000	△ 213,112	5,386,888	5,386,888
	16 会員管理費	2,800,000	△ 53,512	2,746,488	2,746,488
	17 下宿対策費	10,000	0	10,000	6,951
	18 図書借与費	300,000	0	300,000	300,000
	19 式典費	2,400,000	872,480	3,272,480	3,272,480
	20 母校訪問費	680,000	△ 152,358	87,642	87,642
	21 自担補助要助費	550,000	0	550,000	550,000
	22 40周年記念事業費	500,000	0	500,000	1,184
	計	13,840,000	197,018	14,037,018	14,022,355
会議費	23 総会費	900,000	0	900,000	711,124
	24 役員会費	350,000	0	350,000	257,025
	25 連絡協議会費	350,000	38,301	388,901	388,901
	26 旅費	1,300,000	114,549	1,414,546	1,414,546
	計	2,900,000	153,144	3,053,444	2,771,393
繰出金	27 第1回会員登録料	300,000	0	300,000	196,360
	計	300,000	0	300,000	196,360
積立金	28 積立金	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
予備費	29 予備費	530,000	△ 463,890	66,110	66,110
	計	530,000	△ 463,890	66,110	66,110
	合計	27,300,000	0	27,300,000	25,791,716
	合計	27,300,000	0	27,300,000	1,665,244
	差引残額	3,431,226	円	3,431,226	円を翌年度へ繰り越しとする。

財産の状況(平成12年3月31日現在)

財産の状況(平成12年3月31日現在)			
一般会計	引当財産	運用財産	合計
3,431,226	5,452,987	14,500,000	23,384,213

平成11年度職員退職給与積立金特別会計収支決算書

平成11年度職員退職給与積立金特別会計収支決算書					
単位:円 △…減					
歳入	種目	予算額	決算額	比較増減	付記
繰越金	1 前年度繰越金	5,162,665	5,162,665	0	
	計	5,162,665	5,162,665	0	
繰入金	2 一般会計より繰入金	300,000	196,560		
	計	300,000	196,560		
雑入	3 雜収入	7,335	9,522	2,187	
	計	7,335	9,522	2,187	
	合計	5,470,000	5,452,987	△ 17,013	

歳出					
単位:円					
款項	種目	予算額	流用増減	予算現額	決算額
引当金	1 職員退職引当金	5,470,000	0	5,470,000	0
	計	5,470,000	0	5,470,000	0
	合計	5,470,000	0	5,470,000	0

歳入額 5,452,987円  
歳出額 0円  
差引残額 5,452,987円を翌年度へ繰り越しとする。

## 「母校を訪ねる会」第20回目を開催

平成12年10月22日(日)に開催された「母校を訪ねる会」は、本年度で第20回目を迎えました。

ご招待の対象卒年は、第8回(卒後40年目)を筆頭に、第18回(同30年目)および第28回(同20年目)の方々で、ご出席校友の総数は197名と、今までで最も多い来訪者となりました。この盛況は、校友諸氏からの、母校工学部と私ども校友会に対する、力強い連帯とご支援のメッセージであろうと受けとめております。

さらに心励まされることですが、昭和22年に工学部が郡山に移設されてから、このキャンパスを母校として巣立った校友(専門部も含む)には、卒業後50年を迎えた方々も出はじめております。その方々から、対象卒年に卒後50年も加えて欲しいとの要望が挙がっていることです。

工学部校友会が工学部との共催による「母校を訪ねる会」を企画したその趣旨は、母校日本大学ならびに工学部への帰属意識と、校友間の

連帯感を高揚することにあります。また、発展充実した母校の現状を見ていただくことと、さらに、青春の一刻を共に過ごした、友人や恩師との語らいの場の提供にあります。加えて、大学進学予定のご子様をお持ちの校友諸氏に、工学部を選ばれる上での有力な選択要素を提供することにあります。この様な趣旨のもとに発足したこの会も、その後の社会的趨勢でリクルートの機能も加わり、現在に見られるような実に多様で濃厚な会となつたのであります。

20回の節目にあたりこの会を省みると、幾多の功績がありますが、一番強調すべきことは、母校を愛し友を愛する校友諸氏の強烈な精神的連携が、そこに有るということと思われます。その精神的連携を求めて、本年度も10月中旬に第21回を予定しております。校友の皆様には、さらに多くの方々がご参加下さいますことを、切望している次第です。



第20回

母校を訪ねる会

平成12年10月22日

昭和34年度卒業生(第8回)



第20回

母校を訪ねる会

平成12年10月22日

昭和44年度卒業生（第18回）



第20回

母校を訪ねる会

平成12年10月22日

昭和54年度卒業生（第28回）

## 建築学科18回卒同級会

幹事 杉田秀一

建築18回生は郡山市ビューホテルアネックスにおいて母校を訪ねる会の前日10月21日に同級会を開催いたしました。

今年は卒業後30年目の節目の年にあたり地元の同級生が発起人となり準備を重ねてまいりました。当日は遠く北海道、福井、群馬、神奈川、静岡、新潟、宮崎等から28名の同級生が参加し盛大に開催されました。

大学からは倉田次長をはじめ恩師の外山先生、小栗先生、有賀先生に参加頂き大学の近況等を聞きました。既に定年になり大学を去られた先生もおられ、30年の時の長さを感じました。校友会からは渡澤先生に参加頂きました。30年振りに会う級友の顔が最初は戸惑いを見せていましたが、徐々に昔を思い出し話しに花がさき飲むほどに酔うほどにつきせぬ思い出に時がたつのを忘れて歓談しました。何十年過ぎても目大で学んだ絆は強く永遠であってほしいと思いました。最後に応援団だった田中君の音頭で校歌を歌い固い握手をし再会を誓いました。なお当日有志15名が参加してゴルフコンペが行われ大いに心地好い汗をながしました。それぞれ思い思いのプレーに喚声があがり楽しい一時を過ごしました。蛇足ではありますが地元では44年度卒をもじり「酔酔会」の名称で毎年同級会を催し旧交を温めています。

最後になりましたがこの2000年の記念すべき年に同級会が開催できた事に対し校友会の皆々様に感謝致します。

(建築18回卒) 郡山市役所勤務



日本大学工学部建築学科第18回卒業生同窓会 2000年10月21日 郡山ビューホテルアネックス

## 世紀末の思い出

横尾聰

20年ぶりの郡山は、磐越自動車道が開通し、福島空港が出来、市内の道路も新設道や拡幅道によりすばらしく交通の便が良くなっています。また、駅前に建設中の超高層ビルをはじめ街の変遷ぶりには目を見張るものがありました。そのような中で、当時からある郡山ビューホテルに第28回建築学科卒の旧友36名が集い、20年ぶりの再会の喜びを分かち合いながら、当時の思い出話に時間も忘れて語り尽せぬ楽しい一時を過ごさせていただきました。出席者のほとんどが2次会まで参加し、その後行き着けだったスナック等に分散して2000年10月21日(土)は終了しました。



翌日の第20回目の「母校を訪ねる会」においては、母校の発展ぶりを卒業生として誇りに感じました。というのも、3階建てに変わっていた下宿、全面改築の工学部本館や情報研究棟・ハットNE等々の充実した新築施設設備。そして何といっても生き生きと北桜祭を盛り上げている後輩学生諸氏の頼もしさです。しかし、企業からの学生求人数は近年最低だというお話を、卒業生先輩方々の協力を願いすると共に、工学部長の今後の構想理念が早々に実現し更に躍進することを願っています。

10年後の再会を楽しみに、世紀末の良い思い出となりました。関係各位に感謝申しあげます。

(建築28回卒) 新潟県立新発田南高等学校勤務

## 『母校を訪ねる会』に出席して 久田 永

9月上旬、校友会事務局より「母校を訪ねる会」及び、前夜に開催される「同級会」の案内が届いたときには、あっという間に20年が過ぎたと実感しました。

10月21日朝、名古屋を出発し、午後には下宿のおばさんの所を訪ね、今も元気にしておられ、お互いの変わらなさに驚きを感じました。同日18時より郡山ビューホテルアネックスにて7人の同級生が集まり、同級会が行われ、人数の少なさに若干の寂しさもありました。今回の幹事でもあり、工学部専任講師である長尾君より今では実習が無くなり機械科のトレードマークであるブルーのツナギも廃止された事を聞いた時には、残念に思いました。翌日は少し早めに大学に行き、キャンパス内を長尾君に案内してもらい、情報研究棟8階スカイラウンジから見たキャンパス周辺は当時と変わり、道路も未舗装が無くなり、郡山駅前建設中のビルや工学部が事務所を置き、福島県の産業振興の拠点となっているビックパレットふくしまも見ることができました。



日本大学工学部 機械工学科第28回卒業同級会 2000.10.21

記念写真撮影後、50周年記念館でもあるハッタNEにて、小野沢工学部長、佐藤校友会長の挨拶の後、高松工学部事務局長の乾杯にてパーティーが開かれました。

最後に、この度の「母校を訪ねる会」にご招待下さいました学部並びに校友会の皆様に厚く御礼申し上げます。

(機械28回卒) (株)交通エンジニアリング勤務

## 同級会と母校を訪ねて

### 木元 敬一

電気工学科第18回卒業生の30年ぶりの同級会がビューホテルアネックスで行われました。会場となったホテルには、電気工学科だけでなく建築科、土木科も同様に行われておりホテル全体が日大のお祭りに思えました。会場受付で顔を合わせると、昔の面影が残っていて名前を呼び合って、懐かしく語らう風景があちらこちらで見られました。



電気工学科第18回卒業生同級会

校友会副会長加藤木様の挨拶から始まり、恩師松塚先生の長い長い挨拶があり、日大工学部この10年のあゆみと現在の状況が分かりました。もう一人の恩師宍戸先生は、体調を崩されお会いできなかったのが残念でした。お互い五十路を過ぎると、体に「ガタ」がきて、髪は白いものが混じり、目はかすみ…、話題はもっぱらそちらで盛り上がっていました。飲み放題の2時間半があっと言う間に過ぎて、4年後の再会を誓い別れを惜しました。

次の日は、「母校を訪ねる会」懇親会が、ハットNEで行われました。第1回卒業生の大先輩の挨拶の中で、安積永盛駅前の阿武隈川に架かる、木造の小さな橋のことを話されました。私も渡るのに怖かった記憶があり、懐かしく思い出しました。

学部長も校友会長も工学部の将来を見据えて、今後益々進む少子化や学部のグローバル化などに、いろいろな対策が打ち出され、前途洋々頗もしく思いました。

(電気18回卒)

## 同窓会・クラブ・その他

### 「土木科一回生」クラス会

杉 内 祥 泰

平成12年度第20回「母校を訪ねる会」が10月22日に開催され、第8回、第18回および第28回の各卒業生が多数出席されたことをお慶び申し上げます。私達日本大学専門部工科土木科第1回卒業式は1950年（昭和）25年3月に挙行され今回飛入りで卒業後50年の節目に当り世紀変りの秋磐梯熱海温泉旅館松柏に集い永かった半生紀を振り返りながら秋の一夜を楽しく有意義に過すべく級会を開催。全国各地より22名出席全員宿泊。太田実氏は定刻2時前に来館された模様、中野目自己鬼夫氏は久々の参加、五十嵐良男、安藤茂光、榎田寛治、遠藤繁、遠藤惇、木戸政一、木村賢司、込山三男、佐久間賢、佐久間良一、佐藤芳久、鈴木秀吉、円谷正光、国分貞典、佐藤和八、杉内祥泰、福地辰雄、成瀬博。参議院社民党谷本巍の各氏最近国会報告もあり友人からの厳しい声など交々伺いました。毎回記念写真をとっておりますが年と共に髪や顔に年輪が刻まれていくのが良くわかります。今度の級会のご返事の中で体調を崩されて欠席の方がおられました。どうぞ皆さん健康に留意されいつまでも元気に過そうではありませんか。またの再会を祈願し後輩諸君、先生方、校友諸氏、日本大学工学部の益々の発展を心からお祈り致します。

（元日本大学工学部勤務）



### 第10回『桜三九会』同期会

高 橋 迪 夫

昭和39年に土木工学科に入学した同期生でつくる『桜三九会』（さくらサク会）の第10回目の同期会を、母校を訪ねる会に合わせて、平成12年10月21日、ホテルプリシード郡山において開催しました。

会には、木村喜代治先生、土木工学科主任の藤田龍之先生、校友会の代表としてもおいでいただいた石井和樹先生の3名の恩師にもご臨席を賜り、同期生30名、令夫人5名が集いました。



卒業以来初めて顔を見てくれた友、令夫人同伴で出席してくれた友、北海道、富山、大阪等から遠路駆けつけてくれた友、…。近況を交えた自己紹介を進めるうちに学生時代の懐かしい想い出がよみがえり、にぎやかな合いの手も飛び交い、大変和やかな楽しいひと時となりました。

翌日は、学生時代には想像もできなかったほど整備された学内の散策、母校を訪ねる会への飛入り参加と、各自それぞれに懐かしい学舎でのひと時を楽しみ、2年後に千葉で再会することを約して、2日間の楽しい集いとなりました。

（土木16回卒）日本大学工学部勤務

### 工学部校友会ホームページの開設

メールアドレス nucekoyu@minos.ocn.ne.jp  
URL <http://www4.ocn.ne.jp/~nucekoyu/>

校友会もようやくITへの対応環境が整い始めました。4月初旬からアクセス可能の予定ですが、コンテナは整備中ですので、長い目で見て下さい。

## クラス会と旅

### 佐藤満夫

建築6回卒のクラス会が、平成12年11月15日山口県下関市で開かれました。幹事は元校友会山口アカシヤ会々長の山田啓介君で、各地から家族同伴を含む25名が参加しました。吾々の入学時は、年令もアンバランスで、今となると、来春には古希を迎える者もいるバラエティーな仲間でもある。久しぶりに会うと、お互い健康面の話しが多く、中には大病を克服し元気になった者も数人いて、旅はそろそろ全員が奥さん同伴でなければという集りになって来たようである。初日の夜は、遙かに関門海峡を望む古い名のある料亭で、豪華な名物ふぐ料理で乾杯、後は42年前の学生時代に戻り、夜遅くまで語り合いました。2日目は、全員観光バスで萩市へ。日本大学創立者山田顕義伯生誕の地「顕義園」を訪ね、学祖の銅像前で記念写真。先のクラス会で、建築学科の恩師故細谷隆二先生を招待したときのお話の中に、師が日本大学本部の営繕管財部長を兼ねていた頃、丁度史跡公園顕義園の建設に携わり、園を囲む白地の築地塀と石州瓦の話を、懐かしく語っていたのが思い出されました。偉大なる先人の像に深々と頭を下げ園を跡にしました。このあと、松陰神社・松下村塾・東光寺等を見学。今回も意義のある歴史の探訪と、多くの思い出を残したクラス会と旅でした。翌17日の朝、次回は沖縄での再会を約し、下関駅で別れ、それぞれ帰途についたのでした。

(建築6回卒) 元日本大学工学部勤務



## “母校を訪ねて”

### 日本大学工学部宮城栗原同窓会会长 石川憲昭

♪日に日に新たに文化の華の……♪ 昭和36年3月に工学部を卒業して以来40年ぶりに、栗原同窓会の5名と母校を訪問致しました。

今回の企画は数年前からの懸案でありましたが、今年初めて実現しました。東北縦貫道を走り、郡山南インターで降り、安積永盛駅前を通過して行く頃には、学生時代の思い出が少しずつよみがえってきました。



秋も深まった11月11日(土)、正面付近の桜や銀杏はすっかり色づき、50周年記念館に到着したのは午後1時30分であった。校友会事務局で学校の様子や職員の状況、学生の在籍は5千人とのこと、又クラブ活動等への取り組みについてお聞きしました。教授の名前も岡部菅司先生、廣川友雄先生、木村喜代治先生、懐かしい名前も出てきました。そして、本館前中庭の古田会頭の銅像前で記念撮影をし、キャンパスを車で一周しました。付近には数多くの学生アパートが立ち並び、学生達も青春を謳歌している様に感じました。

アカシア並木、旧国道を通り郡山市内を眺め、さくら通りを通り磐梯熱海温泉に宿をとり、夜は同窓生と盃を交わし、楽しい2日間であった。

(土木9回卒) 藤石川土建(自営)

## 平成14年度日本大学工学部入学試験に向けて

平成14年度日本大学工学部入学試験に向けての受験などでのお問い合わせは下記にお願いします。なお、5月には入試に関するホームページも更新予定です。

日本大学工学部入試係 TEL024-956-8619  
ホームページアドレス <http://www.ce.nihon-u.ac.jp>

## ミレニアム年の同級会 山岸利正

輝かしい新世紀、21世紀を迎えました。

昨年はミレニアムの年、そして私たちが卒業して45年。この記念すべき年に、磐梯熱海温泉（旅館昭月）に於いて、4年ぶり2回目の電気工学科第4回卒業生同級会を開催いたしました。

宮城県気仙沼を早朝に出発して大きく発展・充実した工学部を見学された中野栄一氏、前日から宿泊し近くの山々を散策された水戸市からの大和田孝雄氏、白河市で電気自動車を研究され続けておられる金子正氏、定年退職後郡山市中田町にてマイタケ栽培をされている宗像大三路氏など9名が、10月21日集いました。

より多くの級友が集うよう、3ヶ月前から準備を進め『参加呼び掛けメッセージ』などを級友に送りましたが、9人の参加がありました。予想より少なく残念でしたが、不参加の方々からもそれぞれの立場でご活躍されているとの近況報告便りがあり、次回の同級会開催を心強く感じることができました。

当時は、故人となられた鈴木美勝氏（平成11年10月ご逝去）のご冥福を祈ったあと懇親会に移り、恩師の授業の話、同級生との思い出話に花が咲き、アカシヤの林・阿武隈川・学内の桜並木・徳定地区・安積永盛駅など…、学生時代のことが懐かしく思い出されました。酔いがまわるにつれ話題は現実的になり、“人生これから” “産業界の展望” “老いゆく寂寥感”など、時の経つのも忘れ、楽しい一夜を過ごすことができました。



日本大学第二工学部電気工学科第四回卒 2002年10月21日 於 磐梯熱海昭月

電気工学科4回卒の皆様、次回（2002年10月予定）の同級会は、是非ご出席ください。再会を楽しみにしております。

なお今回の同級会開催に当たり、校友会事務局には大変お世話になりました。厚く御礼を申し上げます。

最後に、母校日本大学工学部の益々のご発展と、私たち卒業生をまとめしっかりと「舵」をとてくださっている校友会のご繁栄を、心よりご祈念申し上げます。  
(電気4回卒)

## 日本大学工学部管弦楽部 平成12年度総会報告

OB・OG会幹事 桃井忠男

日本大学工学部管弦楽部OB・OG会は2年前の8月1日に発足しました。その後2年間をかけ「規約、名簿と連絡体制、広報紙」作りなど組織の基本的準備作業に当たってまいりました。この度、その形が整いましたので、8月5日(土)、東京・市ヶ谷の私学会館にて初の総会を開くことができました。

会員は現在、新卒者6名を加え190名を数え、連絡網は住所録のほかにe-mailネットワークとホームページも立ち上げ、広報紙は7号まで発行して会のOB・OG仲間の近況や現役の音楽活動の紹介に当たっています。

総会では、北は北海道、南は鹿児島など全国12都道府県から46名が参加し、よりよい組織作りの検討をはじめ、懇談やアトラクションの演奏に参加しながら、世代を越えて今後の活動のあり方について熱い意見交換を行いました。

平成11年度活動報告で千秋暢良会長（58年電気工学科入学）は「学生時代に音楽を愛した仲間が、この会を通じて、これからもより親睦を深め、有意義な人生を送ること」という会の目的を復唱し、運営委員が、名簿点検、ホームページやNEWアルモニアの広報紙作りなど発会以来2年間に取り組んできた準備作業と活動の報告をしました。続いて曾木新六運営委員長（59年機械工学科入学）が、平成12年度の活動計画説明で「来年平成13年は創部40周年を迎えるの

で、今年はその準備あるのみ、「皆さんのご協力が必要」を訴えたので、参加者からは、住所変更時の届け出の仕方の確立や現役にも役立つ組織作りなど建設的意見が多数提案されました。

親睦会では、OB・OG会員による演奏や初の総会を記念したプロ奏者（千秋佳子、竹中佳子、石川奈美子の三姉）の友情出演に加え、終会間際に総会と懇親会の模様を広報紙「NEWアルモニア8号」で速報し、会を盛り上げました。

その後、運営委員会は、早速、総会の意見を取り入れた「規約の見直しや連絡体制の強化案」作りに取り組んでおり、結果は、ホームページや広報紙でお知らせすることになっています。

（電気12回卒）（社）共同通信社勤務



懇親会で演奏する仲間

## “北心会” 総会開催

事務局長 金澤昭治

北心会（日本大学工学部体育会常任委員のOB会）定期総会を平成12年11月18日午後6時30分より、郡山市内において各地から計12名が出席し、開催いたしました。

総会では、過年度の会務報告、会計報告に続き、平成13年度に予定しております、“北心会”の設立25周年記念事業の式典（懇親会）の開催について審議決定いたしました。

総会終了後の懇親会では、各自近況報告など旧交を温めました。そして、北心会25周年記念式典の成功を記念し、散会しました。

本記念事業で初めて、各クラブOBの方々へご案内する企画としましたので、多数のOBの方々のご参加をいただきたく、記念式典（懇親

会）の日程および内容等をお知らせいたします。

- |           |                                       |
|-----------|---------------------------------------|
| 1. 開催日時   | 平成13年6月16日(土)                         |
|           | 午後6時～                                 |
| 2. 会 場    | 池袋サンシャインシティ<br>プリンスホテル                |
| 3. 会 費    | 10,000円                               |
| 4. ご案内の範囲 | 学校関係、校友会関係、体育会各クラブOB、北心会会員、常任役員会（学生）他 |

以上のとおり予定しております。

ご案内の連絡をいたしますが、ご案内が行き届かない場合がありましたときは、大変恐縮ですが実行委員会窓口までご連絡をお願い申し上げます。

（土木20回卒）小林寺拳法部 郡山市役所勤務

## 静岡アカシア会総会・懇親会

平成9年11月、静岡県内の校友及び静岡県にゆかりのある校友が一同に会し、工学部50周年を祝ってから、はや4年。前回は、正式な案内を出さず、すべて口コミであったにもかかわらず専門部の卒業生から卒業したてのピカピカの新人まで、男・女を問わず、約300名もの校友がお集りいただき大盛会のうちに出来ました。今回は、小野沢元久工学部長・日本大学副総長（機械工学科13回卒）、佐藤光正校友会長はじめ恩師の先生の御出席を予定しています。多数の御出席を期待しております。

日時 平成13年5月12日(土)

17:00受付 18:00～

場所 静岡クーポール会館

静岡市紺屋2-2 JR静岡駅北口徒歩5分

TEL 054-254-0251

静岡アカシア会会長 大澤俊幸

## 「三十四年ぶりの再会」

### 正田躬矩

建築学科第15回（昭和41年度）卒業の同窓会を平成12年1月20日に東京の麹町会館で開催しました。卒業以来34年ぶりに、全員を対象とした初めての同窓会であり、小雪の降る当日は何人の参加があるのか、発起人一同気を揉んでいましたが、186名の卒業生のうち北は札幌から南は高知市から43名が集いました。

会の冒頭で記念撮影をした後、東鉄工業（株）千葉支店長の峰川富雄君が発起人代表の挨拶を行い、一番遠方から駆けつけた（株）北海道都市建築綜合事務所取締役の稲葉敏博君による乾杯の発声で懇親会が始まりました。

参加者のうちホテルや書店経営をしている人がいますが、おおかたは設計事務所、建設会社の経営や勤務あるいは公務員として第一線で活躍しています。卒業後はじめての再会という人もいましたが、34年という時間は、アッという間に学生時代に戻り、郡山での生活や日本の高

度成長を支えた、それぞれの活躍の話などが弾み、二次会に場所を移して続けられました。

最後に、次回の開催を還暦前後の3年後に郡山で開催することを約し、発起人代表に郡山市役所都市開発部次長の永野収君を選出し、解散しました。

次回には、今回より更に一人でも多く参加されるよう、本誌をお借りして同級生の皆さんにお願いします。



### 支部活動

#### 北陸支部活動報告

##### 北陸支部長 鈴木 隆

21世紀の幕開け、校友の皆様におかれましては益々に御活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、予てからの念願でありました北陸支部新潟県校友会の発足が、佐藤校友会長はじめ本部役員の御支援と、発起人として名乗り出た10名の諸兄の精力的な呼びかけによって、昨年7月29日新潟市内のホテルにて80余名参加のなか、満場一致で結成することができました事を御報告いたすと共に、御尽力いただいた皆様に対し心より感謝を申し上げる次第です。

発会式は小柳直太郎（土20）仮議長の進行のもと会則の承認、役員選出を行い、鈴木隆会長（建14）、藤田正勝副会長（土14）以下12名の役員が承認されました。

発会式終了後は新潟地区父母会にお運びいただいた小野沢副総長・工学部長、高松事務局長

はじめ諸先生方と父母会校友会合同の懇親会に入り、総勢80余名が和気藹々とした雰囲気の中で懇親を深めることができ、今後の校友会活動に大きな励みとなりました。



平成13年度の活動としては、総会、懇親会、1400名にもおよぶ会員名簿発行等を計画しておりますが、地域校友間の絆を深め母校の発展に少しでもお役立てできるようなことをも模索し

ながら運営するつもりです。

まだ産声をあげたばかりの新潟県校友会ですが、佐藤会長はじめ本部役員、先輩支部各位の御指導を賜わりながら、一日も早く会員の期待に応えられる会を目指し邁進いたします所存ですので、何卒今後共よろしくお願ひ申し上げます。

(建築14回卒) 緑福田組勤務

## 東海支部総会を終えて

上原 博

第28回東海支部総会は、去る7月28日に名古屋駅前のホテルキャッスルプラザにおいて、60余名の諸先輩方の出席のもとに開催しました。

最初に支部長挨拶ではじまり、加藤木校友会副会長 西村土木科教授から大学の近況について報告があり、その後懇親会に入りました。川村先輩が音頭を取って口火を切り出席者の輪がいくつも出来ました。年の差を忘れ、自然な交流の中で仕事の様子や家族の話に花が咲きあつという間に予定時間になりました。最後に恒例となった、日大節・応援歌・日本大学校歌を出席者全員で齊唱し、再会を約束しあって解散しました。

東海支部の活動として、春と秋のゴルフコンペ、12月の忘年会等いろいろ理由をつけては先輩後輩が集まり飲み、語り親睦を深めています。

今後、若い会員、単身赴任の方々でも気軽に参加できるよう魅力ある会にしたいと思いますので、ご一報頂ければ幸いに存じます。

(土木35回卒) 太啓建設㈱勤務



## 四国支部活動状況

四国支部長 北岡 保之

支部結成から15年たち、谷久(土8)初代支部長のお陰で活動も充実してきました。会員数約500名で、県市会議員をはじめエンジニアとして広い分野で活躍しています。

本年度の総会は9月2日に例年どおり高松市内のわたくや旅館で開催し、4県より5回から37回卒までの29名の参加がありました。事業・会計報告があり、高知県分科会発足について濱田(機5)会長より報告を受け、横井(化20)氏より徳島の状況、また支部活動の活性化など話合い総会を終えました。

懇親会では、お忙しい中出席頂いた校友会の村田常任幹事より母校の状況等報告いただき、また母校で英語教諭を16年間勤め現在高松大学で教鞭を執られている西村祖一先生も初めて参加され、当時の懐しい話を聞かせていただき開宴となりました。酔が回るなか、恒例の全員による近況報告、情報交換と盛り上がり、最後に寮歌、校歌の大合唱で旧交を大いに温めました。

総会以外の活動状況は月例会(一木会)を第1木曜日に高松市内町6-5「はんぶん」で18:30~20:30自由参加で行なっています。お気軽に来て下さい。また6月24日にはジャズを聞きながらの家族会(39名)を開催し楽しく過しました。

ゴルフコンペは高知分科会の発足を記念し、土佐山田G.Cで11月19日13名で好天のもと行ない高畠(電11)氏が優勝、年2回の予定で希望者にだけ連絡していますので必要な方はご一報下さい。

今後とも気軽に参加できる支部活動を考えておりますのでよろしくお願ひします。

(工化14回卒) 高松市土木部長



日本大学工学部校友会四国支部 平成12年度総会 11月3日 会場:わたくや旅館

## 「エネルギー電気電子工学の現状と私が接した事」

西田 保幸



私は、昭和54年の春に本学部電気工学科（現、電気電子工学科）を卒業し、その2年後に東京電機大学に進学して以来、20余年の間パワーエレクトロニクス技術に接してきました。5年前からの2年間は山口大学でそれまでの研究成果を纏め、学位取得と同時に母校に赴任いたしました。今回、校友会報で私が携わってきた技術について紹介する機会を頂きましたので、その概要を述べつつ私のエンジニア生活をすこし振り返ってみます。

戦後まもなくGEでトランジスタを応用したサイリスタ（当時の商品名：SCR）が開発されて以来、大電力の周波数変換を容易にするパワーエレクトロニクス（電力変換）技術の研究が始まり、当時は僅か数100W（ワット）程度しか扱えなかった電力変換技術が、現在では数千MWを扱うまでに発展しました。この技術は電力用の半導体スイッチの開閉（スイッチング）動作によって電力の形態（周波数、電圧、電流、波形など）を自由自在に操り、電力の高度かつ高効率な運用を行うもので、そのスイッチング素子としては数千V、数千Aを扱えるものまであります。現在、私の研究室では大体、300～400V、数10Aの電力を1μs（100万分の1秒）程度で開閉していますが、研究室の電源容量として50kVAを持っていますので近い将来には30～40kWの電力変換を行う計画です。

こういった技術は、もともとは電動機駆動や電源といった産業応用分野で活用され磨かれてきたものですが、その分野を抱える総合電機メーカーが家庭用エアコンに採用して以来、各家電メーカーも盛んに研究開発、応用する様になりました。我々の身の回りでも「インバータ」と

名のつく家電品、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジやIHジャーに生かされています。また、私自身、かつて重電メーカーでこの手の研究開発を行っていましたが、現在は重電メーカーとお付き合いをしながらも家電メーカーとの共同研究もしております。

さて、エコロジーに対して敏感になってきた最近、電力を如何にスマートに消費／利用するかだけでなく、如何にスマートに発生、輸送、蓄積するかが重要課題として追加されました。太陽光などの自然エネルギーを利用した発電やフライホイールなどのエネルギー蓄積要素の効率的運用には、これらの入出力電力の形態を柔軟かつ適切に変更（変換）する必要があります。ここにパワーエレクトロニクス技術のさらなる応用および発展の可能性があり、最近の大きなテーマでもあります。こういった技術要素を総括的に捕らえて研究開発を行う必要から、「パワーエレクトロニクス」を包含する新しい技術分野の呼称として「エネルギー電気電子工学」がこの領域の大家である原田教授（崇城大学）から提案され、その命名の趣旨に感銘を受け、私の研究室にこの名称を拝借しました。最近、フライホイール式のエネルギー蓄積装置入手し、これからその特性を検討しながらこの新しい世界を開拓していく所存です。

最後に、なにかと硬くなりがちな工学ですが、考える頭にもまして感ずる心が必要との気持ちから、私の一つの経験と私の親友の作品を紹介します。

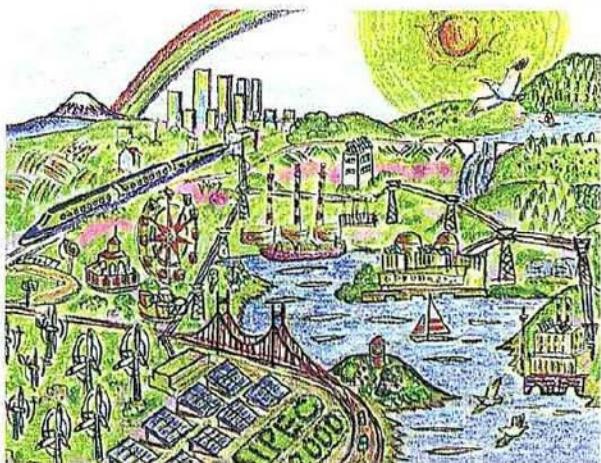
10年位前のヨーロッパで開催された国際会議で私がポスターを使って研究発表を行った時のことです。とあるアメリカ人エンジニアと10分位私の提案する大電力整流回路について議論しました。彼が、周到な質問の後の別れ際に、「I

"Like This Circuit" と言ったのが今でも忘れません。当時他の大学で研究に励んでいた私には「論文になる・ならない」または「良い・悪い」という判断指標は強く意識していても「好き・嫌い」を意識する事はありませんでした。新鮮な一言でした。私は工学の中にあっても時には工学的価値を抜きにして「好き」を主張してもいい事を感じ、また、それが自身の内にある事を思い出しました。本学部を卒業して直後、幼い頃から「好き」であった電気の世界を思い出して（郡山では忘れていた様ですが）進学を志した訳でしたが、再度それを忘れていた様です。

掲載させていただいた絵は、昨年東京で開催されましたこの技術分野の代表的国際会議である "International Power Electronics Conference - Tokyo 2000" のシンボル画として採用

日本大学全国校友大会は、平成12年12月4日、

された作品です。今では、この絵を見て感ずるファンタジーと "I Like This Circuit" とは私の内で何か一体であるかの様に感じています。私のエンジニアとしての出発点であるこの郡山の後輩と世代を異にしながらも工学を通して何か共通のものを感じたいと願ってはいますが努力であることを痛感する日々です。（電気27回）



## 日本大学全国校友大会開かれる

東京赤坂プリンスホテルにおいて、日本大学校友会主催、日本大学後援のもと盛大に開催された。当日、全国からご出席された校友は1200余名の多きに達した。運営関係者の労を多とするところであります。

校友会長瀬在良男先生のご挨拶でも述べられたとおり、日本大学が「21世紀日本大学未来戦略」を掲げて、数々の施策を練り上げてすでに実践に移していることは誠に心強い。校友85万1千余名は、日本大学の良きパートナーとして、相互の絆を強め、力を結集し、母校の発展と興隆に資したいものである。

以下、大会の次第と写真を掲げ、盛会の一端を語る。

写真は、学部ゆかりの歌披露の壇上で、工学部の卒業生にとっては心の歌である「北心寮々歌」を絶唱している校友の面々である。



### 次 第

開会宣言	
鏡開き	杯
乾杯	
お疲れ様	「シドニー五輪選手・役員」
がんばれ	「箱根駅伝出場選手」
応援歌合唱	
ゲストインタビュー	
学校ゆかりの歌披露	
校歌合唱	
閉会の辞	

## 若葉マーク

### がんばり記

# 「学生から社会人」

いすゞバス製造株式会社 田 中 隆

現在、私はいすゞバス製造という会社に就職し、品質管理という仕事をしています。仕事内容は主にバスの車体及び部品の検査、市場クレームの原因調査など様々。仕事に慣れるまでもう少し時間がかかりそうですが、焦らずじっくり行きたいと思います。

学生の頃には自動車関係(特に大型)に興味があったので機械工学科に在学していました。社会に出て「何か学校で習ったような気がするな」と感じる時、何とかギリギリで乗り切って来た生活が楽しかったのかもしれませんがあなたも少し真剣に取組んでも良かったのかなと思います。

部活動では体育会スキー部に所属していました。そこで様々な経験を積んだ事が今の自分に大きいに役立っています。しかし、少々お金の掛かるスキー部でやりくりが下手くそだった事もあり、借金に追回される四年間でした。社会人になったらお金を貯めようと思っていたのですが人間そう変わるものではなく、今でも借金にどっぷり漬かっています(あと3年くらい)。ここで勧誘ですが、スキー部は少々お金が掛かる部活ですが私のような人間はごく希で、普通に生活していれば問題はないでしょう。活動内容は全てのスキーの基礎となるレーシングスキーの練習・大会出場、宴会、学食でごっつぁん。是非入部して楽しく充実した学生生活を送ってみて下さい。

自己紹介はここまでにして、少しでも皆さんの役に立てるのであればと思い、次に挙げる項目について自分なりに感じたこと考えたことを伝えたいと思います。自分に必要と思った項目だけ読んでみて下さい。

1. 学生生活で得たもの
2. 課外活動で得たもの
3. 在学中に暇があれば
4. 就職活動で感じたこと
5. 社会人になって感じたこと

#### 1. 学生生活で得られるもの

なんと言っても県外に数多くの知人ができることで、より多くの情報・価値観が得られることです。例えば、就職活動において会社選びに悩んだとき紙の上だけでは表せないような地元の情報が聞ける。また旅好きな人にとっても何も知らないで行くより多少の知識を持っていた方がその旅は数倍も面白いものとなるでしょう。そして色々な価値観と出会うことで自分の考えがより明確になり自然に何らかの目標ができる。

私もそうでしたが一年生の頃、自分は何をやりたいのか全く分からなかった人が結構いると思います。できるだけ多くの人と交流することをお勧めします。

#### 2. 課外活動で得られるもの

私達が社会に出る上で縦の人間関係がどうしても主体になってくる。最近では変わってきているのかと思いますが、社会にいち早く溶け込むにはあえて悪い言い方をすると「先生・先輩・後輩の扱い方に慣れる」ことが重要になると思います。学校では先生・先輩を選べますが会社では上司を選べません。色々な活動をして人付き合いに慣れておくことが良いと思います。私は慣れていませんが。

#### 3. 在学中に暇があれば

おそらく会社で必要とされるものは、大学の成績よりもむしろその会社で必要とされる技術・技能、さらに言うと即戦力。そこで興味がある分野の資格を取っておくことをお勧めします。実際に私も取得した資格のおかげで多少ですが優遇されることがあります。そして、自分の希望する部署にも手っ取り早く配属されるのではないかと思います。もちろん入社試験の際にも有効。

#### 4. 就職活動で感じたこと

面接試験などで正統派の意見を言うのも良いと思います。しかし、それらの意見は誰もが考える事でありよほどどの知識がなければ面接官に印象を与えないと思う。そこで、人とは違う人材が求められる時代に、おふざけにならない程度の特技があれば相手に強い印象を与えることが出来ると思う。私の場合を例に取ると「溝にハマった車の救出」。つまらないですか?皆さんも変な特技を身に付けてみてはいかがでしょうか。

#### 5. 社会人になって感じたこと

朝が早い、帰りが遅い、騒がない、しかし1ヶ月も経てば自分でもびっくりするぐらいその生活に馴染んでいました。夜十時になると眠くなる自分を悲しく思います。



# 校 友 短 信

## 土木工学科

◇平石桂一（25回卒、日本乾留工業㈱、佐世保市）

6月、佐世保出張所に転勤になりました。

大学及び周辺もいちじるしく変化していると思いますので、一度訪問したいと考えています。恩師にもお会いしたいと思っています。  
(H12.6.16受)

## 建築学科

◇八俣敏之（8回卒、㈱サーク開発、福岡市）

「母校を訪ねる会」では大変お世話になりました。40年ぶりに、旧友と語り飲み良き思想出を一杯満喫出来ました。私達が在学時出来た1号館の煙突は、まだ健在でなつかしさで一杯でした。又機会が有れば、伺いたいと思います。  
(H12.12.7受)

◇今井 敬（8回卒、今井建築設計事務所、豊橋市）

いつも懐かしく会報を見ています。『母校を訪ねる会』を心待ちにしておりましたが、状況がとのわず残念です。本当に懐かしく30～35年前が昨日のことの様に思い出されます。これからも継続されることを心よりお祈り申し上げます。  
(H12.9.20受)

## 機械工学科

◇遠藤富士男（18回卒、遠藤歯科医院、須賀川市）

『母校を訪ねる会』、都合がつかず残念ながら欠席させて頂きます。卒後30年、月日が経過すねのは早いものです。現在歯科医として頑張っております。皆様の益々のご活躍を祈念致します。  
(H12.9.25受)

◇伏見恒久（18回卒、㈱電元社製作所、座間市）

現在、タイにSUPERVISORとして長期出張中です。『母校を訪ねる会』に出席できず残念です。皆様によろしくお伝えください。  
(H12.10.3受)

◇二木好文（18回卒、コニカ㈱、ハンブルグ市）

2度目のドイツ勤務中で、『母校を訪ねる会』は残念ながら出席できません。皆々様の御発展を！  
(H12.10.4受)

## 電気工学科

◇夏原寿一（8回卒、ナツバラテクニカル、目黒区）

30年間のサラリーマン生活にピリオドを打ってから10年、“技術文書英訳業”を営んでおります。『母校を訪ねる会』当日は、米国出張と重なるため欠席とさせて頂きます。  
(H12.9.29受)

◇吉田賢一（28回卒、茨城県庁、北茨城市）

5月の連休に、家族と母校を訪ねました。新しい建物の中で当時からの建物実験棟が残っていて学生時代を思い出してしまいました。次回の『母校を訪ねる会』は、是非出席したいと思います。  
(H12.9.26受)

## 工業化学科

◇高梨誠一（11回卒、栃木県野木市）

4月1日付けで防衛庁を退職致しました。昭和38年4月、調達実施本部に職を得てから37年間の勤務でした。無事、退職の日を迎えることができました。  
(H12.10.10受)

◇齊藤和彦（28回卒、茅ヶ崎市立円蔵中学校、茅ヶ崎市）

関東ブロックの研究会で発表することになっており、『母校を訪ねる会』は欠席させていただきます。  
(H12.9.25受)

### 『2000年度日本建築学会大会（東北）』の概況報告

濱田 幸雄

2000年度日本建築学会大会（東北）が、平成12年9月8日～10日までの3日間に渡り、工学部キャンパスを主会場として開催されました。この大会は、規模・内容において非常に大きな大会であるため、これまで各地域ブロックの県庁所在地か、その近郊都市での開催がほとんどでした。東北支部でも仙台を離れての初の開催でした。大会開催に当たっては、大会委員会（委員長：岩崎博教授）、実行委員会（委員長：佐藤平教授）を組織し、工学部建築学科教員を中心となり、東北地方の官公庁、大学関係者などと協力しながら1年半に渡り準備を進めて参りました。大会期間中は、学術講演発表題数6,131題、学術講演・研究協議会等の参加総数が17,456名、建築作品展の参加者が延べ1,982名となりました。また、9月7日にビッグパレットふくしまを会場として『子供と高齢者に向けた行動計画』シンポジウム実行委員会と共に開催しました講演会「ほんとの空・日本のこころと美意識」、「新世紀へのパスワード・子どもの夢・おとなの夢」には、小学生をはじめ一般市民の皆様360名にご参加いただきました。この結果、見学会・大会懇親会等を合わせ、今大会の参加者数は合計延べ20,538名になりました。

このように、県内外から多くの参加者を得て大会を無事終了できたのは、大学や付属高校の会場を快く提供していただき、大会の運営に必要な諸設備と屋内外の会場整備に多大なご支援をいただいた大学、付属高校の事務当局、小野沢元久副総長・工学部長、倉田光春次長、高松雄行事務局長等のご尽力の賜物であり、心より御礼申し上げます。さらに、岡田恒男学会長、斎藤賢吉（建築15回卒）事務局長を始めとする

学会本部役員、事務局の方々、関連官公庁、関連団体の方々のご協力に対しても、心より感謝申し上げます。

最後に、参加いただいた一般会員の皆様からは、大会運営を支えた約460名の工学部学生スタッフの真摯な態度と、清潔で自然豊かな教育環境に対して讃辞の言葉をいただきました。これは工学部50年の歴史、校友会会員諸氏をはじめとする諸先輩方が築いてこられた伝統に対する讃辞に他なりません。すばらしい伝統を築かれた諸先輩方に敬意を表し、大会報告とさせていただきます。

（建築学科勤務）



### 産・官・学連携フォーラム開催

産業の技術振興対策および地域社会の活性化に貢献するため、日本大学工学部・工学研究所が、「産・官・学連携フォーラム」を企画立案し、平成12年11月20日に郡山市の「ビックパレットふくしま」で開催されました。

この開催には、福島県、郡山市、須賀川市、(財)福島県産業振興センター、(財)郡山地域テクノポリス推進機構、郡山商工会議所、須賀川商工会議所、(社)発明協会福島県支部、および日本大学工学部校友会の後援を受けた。27件のポスター・セッション、7件の共同研究事例報告および講演会などで好評を博した。

## 代替文字使用のお願い

従来、会員のデータ管理は、大型コンピュータ機による外注委託に依存しておりましたが、平成13年度から、その管理を校友会事務所内の汎用機で行うこととなりました。その移行に伴い、第2水準以上の人名・地名文字に出力不可能なものがあります。それらは下記の文字群ですが、その対応策としてこれらの文字について代替文字を設定しました。今後、名簿の出力、会報送付などの諸連絡においては、この代替文字を使用させていただくこととなります。関係会員の皆様には大変に心苦しい処置とは存じますが、現状をご理解いただき、ご了承くださいますようお願いいたします。なお、下記以外の事例が見つかった場合にも、同様の処置をさせていただきます。

(校友会事務局)

原字	代替文字	原字	代替文字	原字	代替文字	原字	代替文字	原字	代替文字	原字	代替文字
熙 → 熙	祥 → 祥	博 → 博	博 → 博	寄 → 寄	寄 → 寄	靖 → 靖	靖 → 靖	イツ	商 → イツ		
熙 → 熙	祐 → 祐	軒 → 軒	軒 → カソ	功 → 功	功 → 増	松 → 松	松 → 松	マツ	効 → 効		
禎 → 熙	禎 → 祯	衆 → 衆	衆 → 衆	彦 → 彦	彦 → 瓦	清 → 清	清 → 清	スル	藤 → 藤		
檜 → 榆	福 → 福	橋 → 橋	橋 → 橋	座 → 座	座 → リョウ	稗 → 稗	稗 → 稗	スル	藤 → 藤		
檜 → 檜	福 → 福	橋 → 橋	橋 → 橋	爾 → 爾	爾 → えつき	脛 → 脣	脣 → 脣	スル	崎 → 崎		
朽 → クチ	練 → 練	角 → 角	角 → 角	英 → 英	英 → 舞	茭 → 茭	茭 → ススム	スム	菜 → 菜		
麥 → 麦	堅 → 野	將 → 將	將 → 將	土 → 土	土 → 土	迫 → 迫	迫 → 圂	ツル	餡 → 餡		
糸 → 紘	藏 → 藏	將 → 將	將 → 將	耕 → 耕	耕 → タキ	禰 → 禰	禰 → 禰	スル	份 → 分		
精 → 楠	澁 → 澀	靜 → 静	靜 → 静	榆 → 榆	榆 → ユ	莘 → 莘	莘 → 莘	スル	習 → 習		
穢 → 荻	禮 → 禮	蓑 → 蓑	蓑 → 蓑	漢 → 漢	漢 → ハ	疊 → 疊	疊 → 疊	スル	竈 → 竈		
吉 → 吉	與 → 與	丈 → 丈	丈 → 丈	塚 → 塚	塚 → 塚	會 → 會	會 → 會	スル	叢 → 叢		
廣 → 廣	真 → 真	鶴 → 鶴	鶴 → 鶴	响 → 响	响 → ススム	博 → 博	博 → 博	スル	枚 → 枚		
廣 → 廣	龍 → 龍	泰 → 泰	泰 → 泰	増 → 増	増 → 増	圳 → 錦	錦 → 錦	スル	間 → 間		
嘔 → 廣	芳 → 芳	規 → 規	規 → 規	梁 → 梁	梁 → 梁	犖 → 犖	犖 → 犖	スル	最 → 最		
築 → 築	幼 → 幼	柳 → 柳	柳 → 柳	邦 → 邦	邦 → 邦	巢 → 巢	巢 → 巢	スル	鎰 → 鎰		
築 → 築	茂 → 茂	柳 → 柳	柳 → 柳	沪 → 沪	沪 → 沪	務 → 務	務 → 務	スル	垂 → 垂		
竿 → 竿	茂 → 茂	高 → 高	高 → 高	沪 → 沪	沪 → 沪	挽 → 挽	挽 → 挽	スル	晓 → 晓		

### 関東支部総会及び東京都校友会設立についてのご案内

今般開催される工学部本部校友会総会の前に、関東支部総会及び東京都校友会の設立総会を下記の通り開催致します。

東京都校友会の設立は、関東支部の組織を充実発展させることを目的として、既に設立した、千葉県校友会、埼玉県校友会に統いて、東京都校友会を設立するものです。

東京都、栃木県、群馬県、茨城県、千葉県、埼玉県、神奈川県、および山梨県に在住する校友の方は、万障繰り合わせのうえお集まり下さい。

日時 平成13年4月28日(土) 12時30分

会場 日本大学会館 (P20の地図をご覧ください) 交通 JR線市ヶ谷駅下車

(地図:工学部校友会総会と同一場所)

地下鉄営団有楽町線市ヶ谷駅下車

東京都千代田区九段南4-8-24

地下鉄都営新宿線市ヶ谷駅下車

TEL 03-3262-2271

地下鉄営団南北線市ヶ谷駅下車

徒歩2分

## 日本大学工学部校友会員各位

平成13年3月1日

日本大学工学部校友会会长 佐藤光正

### 平成13年度通常総会通知

本会会則第15条により、日本大学工学部校友会平成13年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙とは存じますが、先輩・後輩お互いにお誘い合わせの上、多数ご出席下さいますよう、ご通知申し上げます。

記

1. 日 時 平成13年4月28日(土) 14時より
2. 場 所 日本大学会館(右図参照)
3. 議 題 (1)平成12年度会務報告および決算報告  
(2)平成13年度事業計画および予算審議  
(3)会則の改正  
(4)その他
4. 懇親会 総会終了後、引き続き同所において大学関係者を迎えて懇親会を開催

以上



### 第21回母校を訪ねる会

日 時 平成13年10月21日(日)  
場 所 日本大学工学部 創立50周年記念館を予定  
対 象 第9回卒業生(昭和36年3月卒業)  
第19回卒業生(昭和46年3月卒業)  
第29回卒業生(昭和56年3月卒業)  
専門部卒業生

今回は上記年度の卒業生が母校訪問の主たる対象となります。

また、上記年度は主たる対象年度ですので、この年度以外の方々は参加できないということではありません。対象年度の当該に関わらず、是非とも多数ご来校下さり、大きく発展・成長した母校をご覧いただき、恩師や級友との再会に懐かしい一時をお過ごし下さい。

### 工学部校友会創設40周年記念 「総合名簿」発売中

- 内 容 約39,000名の名簿  
約700ページ
- 申込方法 工学部校友会事務局にお申込み下さい。  
尚、会員皆様の住所、勤務先・役職等の変更は、工学部校友会事務局までお寄せ下さい。

### 校友会報 第64号

発 行 所 日本大学工学部校友会  
福島県郡山市田村町徳定字中河原1  
郵便番号 963-1165  
電話番号 024-944-1327  
FAX番号 024-944-1327

発行部数 45,000部  
発行日 平成13年3月1日  
発行代表者 校友会長 佐藤光正  
編集責任者 編集委員長 石井和樹